

日何々新タニ煙毒ノ害ヲ見ンヤ何ヲ困メテカ之カ説ナ爲スト謂ハ
、余ハ復ダ何ヲ云ハソ

斯ノ如キ前後錯雜ナル説話ノ爲ニ諸君カ貴重ナル時間ヲ懇ロニ假
貸セラレシハ余カ深ク謝スル所ナリ

○琵琶湖疏水工事ノ質疑

(十七年四月演述)

杉山 輯吉

水利ヲ開通シテ物産ヲ振起シ以テ京都ノ繁盛ヲ來スヘキモノハ則チ
琵琶湖水ノ疏通ニ在リ但シ之ヲ疏通セハ運輸ヲ便ニスルハ素ヨリ爲
メニ器械ヲ運轉シテ諸製造ヲ盛大ニシ餘力ノ及フ所之ヲ内ニシテ府
下井水ノ缺乏ヲ補ヒ火災防禦ノ用ニ備フヘク其他水車ヲ製シテ精米
ノ用ヲナシ下水ヲ清淨ニシテ衛生ニ取ルヘク宇治紀伊及ヒ愛宕葛飾
ノ郡内旱損ノ田面ヲ灌漑シテ若干ノ収穫アルベシ之ヲ外ニシテ舟楫
ノ利東近江國ヨリ西攝津國ニ及ヒ其大利公益アル頗ル大ナリト云フ

工學叢誌第三十卷

ヘシ扱テ之ヲ疏通スルニハ大津三井寺ノ下ヨリ山科地方ヲ經テ愛宕
郡南禪寺村ヨリ北高野川ヲ西ヘ下鴨村ヨリ加茂川ニ沿ヒ高瀬川ニ聯
絡シテ大坂開港ノ水運ヲ琵琶湖ニ達セシメ其分水力ヲ以テ堀川ノ船
路ヲ通スルモノナリ又工事ニ至リテハ三保崎ヨリ高野川迄ノ間數ハ
七千〇三十間ニシテ此中第一隧道ハ字三井寺山高野寺山ノ間其長サ
千四百間ナルモノ第二隧道ハ字大日山南禪寺山ノ間其長サ六百五十
間ナルモノ之ニ堀割ノ場所六ヶ所アリテ間數都合四千九百八十間ナ
リ其水力高瀬川ニ比スレハ少シク緩ナルモ水量ハ凡四五倍ナリ堀割
地底ノ勾配ハ平均一間ニ付一分ヨリ一厘、水幅ハ二十五尺ヨリ十四尺
(隧道内幅十四尺)水深ハ二尺内至五尺ニシテ工費ノ豫算額左ノ如シ

一金六拾万圓

此內譯

第一工事 湖水ヨリ高野川迄

圓

五一、七九四 九八

三五五、三三五 八二

七、五六五 六〇

一一、七三七 〇〇

一〇、一六七 四六

九、四九七 九八九

八九、二一九 七七

五三、五三一八 六一九

第二工事 高野川ヨリ十川迄

二、九八一 五五七

堀割費

三、八三五 二一六

土地買上費

三六、六四八 三二

閘門建築費

堀割及堤坊費

隧道費

閘門建設費

石垣費

橋及暗溝費

土地買上費

工事準備金

以上合計

一〇、四三六〇五七

堤坊及堰費

一〇、七八一二三八

工事準備金

六四、六八一三三八一

以上合計

以上ハ琵琶湖疏水ノ工事ニ就キ余が嘗テ聞見シタル處ナルが即チ僅カニ六十万圓ヲ以テ前述ノ如キ大利公益ヲ得ルハ實ニ余輩京都府民ノ爲メ之ヲ喜ハサルヲ得ス去レハ此ノ如キ工事ニ費ス金額ハ假令京都府民ノ負擔スルモノニモセヨ余輩ハ府民ノ之ニ不平ヲ鳴ラサヌシテ割附ノ出金ヲ勧メサルヲ得サルナリ蓋シ京都ニハ文明ノ最上等ナル交通線鐵道ハ七條ヨリ琵琶湖ニ達シ既ニ充分ナル運搬ノ便アリ三條ヨリ大津迄ハ脩路第一等ナル碎石道ノ設アレハ決シテ現今我國ノ他地方ニ比シテ交通不便ノ地ト云フヘカラス大坂エハ漁車ノ便アリ淀川ノ舟路アルモ特リ其琵琶湖疏水ノミヲ欠クニテ之ヲ竣功セハ實ニ充分ノ上ニ充分ヲ加ヘ我國運輸上ノ光耀之ヨリ大ナルハナシ然

レニ此湖水ヨリ京都迄ノ地勢山脈ハ盤錯シテ工業ニ困難ナルハ長サ
二千〇五十間ノ隧道アルチ以テ其一班ヲ知ルニ足ルノ實況ナレハ其
事業ノ容易ナラサル一目瞭然タリ是等ハ工師ノ最モ注目スヘキモノ
トス若シ夫レ單ニ市街ヲ清潔ニシ其餘水ヲ灌漑ニ供スル如キハ桂川
ノ上流ヨリ溝渠ヲ開鑿スレハ稍々其目的ヲ達スルニ足ランカ又交通
ノ便ハ近江ニ求メスシテ寧ロ丹波丹後ニ方向ヲ變ヘ該地方ノ未製物
ヲ簡易ニ京都ヘ運搬スルノ便ヲ開キ並セテ兩丹地方ヲ經テ北海即チ
舞鶴（人口九千〇七十三人）及ヒ宮津（人口九千三八人）地方ヘ交通ノ計畫ヲ爲サハ求
メスシテ京都ヲ盛昌セシムルコナラン若シ夫レ京都兩區ノ人口ヲシ
テ明治十四年ノ調査ノ如ク其數二十三万三千三百〇八人ナラシメハ此
工事ノ金額ハ六十万圓ナルチ以テ之ヲ平均一人ニ割付ルニ金二圓六
十錢ナリ又之ヲ戸數ニ賦課スルニ一戸ニ付金拾三圓ノ割合ナレハ物
價下落ノ今日ニ在シテ此出金ハ或ハ爲シ難き事實ナラシカ果シテ然

テハ此金額ノ利子ヲ一割ト見テ六万圓ナレハ此六万圓ヲ以テ毎年工事ヲ起シ漸次ニ該府ニ區ノ繁昌ヲ祈ルモ敢テ不可ナカルベシ免ニ角運輸メ便ヲ開クハ國運ノ進歩ヲ催カスモノナレハ余輩ノ緘默シ能ハサル所ナリ諸君以テ如何トス

本會記事

主記 曾 滉 達 藏
眞 野 文 二

○四月四日午後第四時本會事務所ニ於テ常議員會ヲ開ク出席員左ノ如々

幹事	志田林三郎君	全高峯讓吉君
常議員	中村貞吉君	全藤岡市助君
全	安永義章君	